

### 第3章 公共交通施策

#### 1 基本方針別の施策の方向性

計画目標を達成するための基本方針別施策を下表で整理した。

基本方針	施策の方向性	施策内容
基本方針1 東京 BRT を軸とした交通ネットワークの充実  東京 BRT の速達性・定時性の確保や機能向上に資する取組	《施策1-1》 東京 BRT の着実な段階整備	① 検討路線へのルート延伸による多様なニーズへの対応
		② 東京 BRT の速達性・定時性の確保に資する取組
	《施策1-2》 東京 BRT 及び路線バス等の輸送力確保	③ ダイヤ改正等による多様な利用者ニーズへの対応
		④ 来場者や帰宅客への情報提供など、分散誘導への取組
基本方針2 交通手段間における乗継利便性の向上	《施策2-1》 他の交通モードへの乗換情報の充実	⑤ 集客施設と連携した需要集中への対応
		⑥ 交通機関の動的情報の一元化
	《施策2-2》 多様な端末交通との結節機能拡充	⑦ 施設管理者や交通モード間の枠を越えた、乗継利便性向上に資する案内の充実
《施策2-3》 バス待ち環境の改善	⑧ 多様な交通モードの結節とまちのにぎわい創出に寄与するモビリティハブの整備	
基本方針3 臨海部の特性を活かした回遊性のある移動環境の形成	《施策3-1》 自転車シェアリング等の拡充	⑨ 停留施設改善等によるバス待ち環境の快適性向上
	《施策3-2》 開発に伴う空間整備と連携した歩行空間の確保	⑩ シェアサイクル等と、東京 BRT や路線バスといった他の交通機関との連携強化による回遊性向上
	《施策3-3》 自動運転技術を活用した移動サービスの実現	⑪ 道路空間や公開空地などを活かした歩行回遊空間の拡大
基本方針4 ユニバーサルデザインに配慮した交通施設や情報提供機能の整備の加速	《施策4-1》 ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備の更なる推進	⑫ 自動走行や次世代モビリティ等の実装促進
	《施策4-2》 急増するインバウンドへの多言語対応の案内充実及び動的情報(運行情報)の提供	⑬ ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備
		⑭ 多言語対応の案内充実及び動的情報(運行情報)の提供



**施策 1-2 東京 BRT 及び路線バス等の輸送力確保**

○東京 BRT 及び路線バス等の交通需要に応じた輸送力の確保を図る。

【施策内容】

③ **ダイヤ改定等による多様な利用者ニーズへの対応**

- ・臨海部の居住者や来訪者等の増加、それに伴う地域住民の移動への支障など、これらに対応した輸送力確保や交通の分散のため、東京 BRT 及び路線バス等の交通需要推移に対応したダイヤ改定や路線再編等を検討する。
- ・なお、利用者減少に伴いバス路線の維持に課題があった場合には、継続的な路線維持のため、減便等の対応も検討する。

施策内容



【江戸バスルート変更例（令和6年4月） 出典：中央区4/11プレスリリース】

実施主体 交通事業者、東京都、関係3区

実施時期	施策事業	2026	2027	2029	2029	2030 以降
	③ダイヤ改定等による多様な利用者ニーズへの対応		交通需要に応じて随時実施			

**施策 1-3 集客施設との役割分担による移手段の確保**

○沿線住民がバスを利用できるよう、急増する来訪者需要に対して、イベントを開催する施設等と交通事業者が連携し、臨時的な移手段を導入する仕組みを検討する。

**【施策内容】**

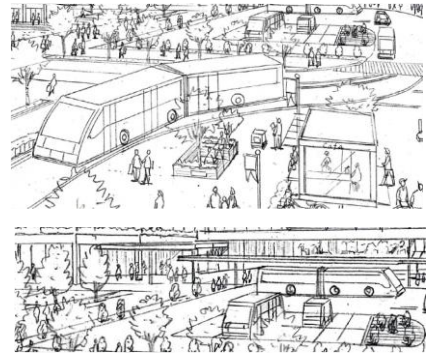
**④ 来場者や帰宅客への情報提供など、分散誘導への取組**

**⑤ 集客施設と連携した需要集中への対応**

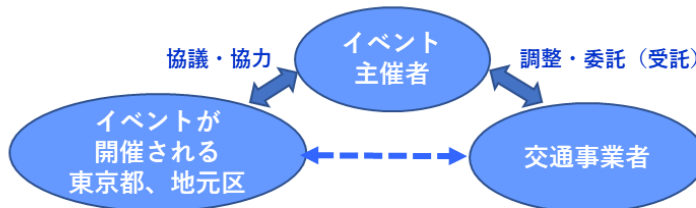
- ・臨海部のイベント主催者、集客施設管理者、東京都及び施設が立地する区が連携し、イベントカレンダーなどを共有して来訪者需要を適切に把握する。
- ・イベント主催者及び集客施設管理者が、交通事業者（バス事業者及び送迎サービス事業者）と調整し、イベント来訪者需要に応じた送迎サービスを実施する。
- ・必要に応じて、イベントが開催される東京都、地元区は、送迎サービスに関する調整等を実施する。

**■集客施設のイベントカレンダー共有イメージ**

月	火	水	木	金	土	日
27	28	29	30	10/1	2	3
	○○フードセレクション		施設B			
4	5	6	7	8	9	10
			○○モーターショー2027			
	○○国際見本市		施設B			
11	12	13	14	15	16	17
				○○デジタルショー		
				○○デザインフェスタ2027		
				施設B		
18	19	20	21	22	23	24
	○○DX EXPO2027		施設B			
				○○先端化学材料素材展2027		
				アニメフェス		
				施設A		
25	26	27	28	29	30	31
				○○ビジネス2027		
				施設B		
				○○フェスTokyo2027		
				施設A		



- ・ イベント毎の来場者特性の把握
- ・ 来場者数の想定（ピーク/オフピーク）



- ・ 来訪者が移動しやすい環境づくり
- ・ 関係機関との調整

- ・ 利用者数等に応じた運行計画
- ・ 効率的な輸送形態の提案
- ・ 安全な運行サービス



施策内容

実施主体 交通事業者、イベント主催者、東京都等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	④来場者や帰宅客への情報提供など、分散誘導への取組	必要な情報検討・収集		情報発信方法の検討・実施		
	⑤集客施設と連携した需要集中への対応	サービス提供に向けて関係者と協議				

【基本方針2】交通手段間における乗継利便性の向上

施策 2-1 他の交通モードへの乗換情報の充実

○都心部や臨海部で展開する大規模開発に伴う常住人口・従業員数の増加への対応及び急増する来訪者への交通手段選択に寄与するために有効な情報提供を目指す。

【施策内容】

⑥ 交通機関の動的情報の一元化

⑦ 施設管理者や交通モード間の枠を越えた、乗継利便性向上に資する案内の充実

- ・臨海部で運行する交通事業者の動的情報を一元化し、地域住民や来訪者に対して、「移手段」及び「移動時間帯」の選択に有効な情報提供ツールを検討し、乗継利便性の向上を目指す。

施策イメージ（とやまロケーションシステム）



- ・富山地方鉄道路線バス
- ・大山コミュニティバス
- ・八尾コミュニティバス
- ・山田コミュニティバス
- ・まいどはやバス
- ・呉羽いきいきバス
- ・水橋ふれあいコミュニティバス
- ・婦中コミュニティバス
- ・堀川南地域本郷町循環線

運行情報の一元化



施策内容

実施主体 東京都、交通事業者、関係3区等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	⑥交通機関の動的情報の一元化		調査・検討			
⑦施設管理者や交通モード間の枠を越えた、乗継利便性向上に資する案内の充実		調査・検討				

**施策 2-2 多様な端末交通との結節機能拡充**

○多様な交通モードの結節と街のにぎわい創出に寄与するモビリティハブの整備を目指す。

【施策内容】

⑧ 多様な交通モードの結節とまちのにぎわい創出に寄与するモビリティハブの整備

・ 既往の駅前広場とは異なるコンパクトな交通結節点として、活用できる敷地規模と道路空間に応じ、以下の機能を兼ね備えた「モビリティハブ」の整備を目指す。

- ラストワンマイルをケアするシェア型小型（パ・リカ）モビリティとバス等多様な移動手段間の接続
- 歩行空間を有効に活用した回遊・休息空間

■ モビリティハブのイメージ



施策内容

実施主体 開発事業者、関係3区、東京都、交通事業者等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	⑧多様な交通モードの結節とまちのにぎわい創出に寄与するモビリティハブの整備					

社会実証・導入検討・需要に応じた整備

**施策 2-3 バス待ち環境の改善**

○東京 BRT や路線バス等の停留所や交通結節点などにおいて、バスを待つ時の快適性を確保する環境改善及び施設整備を目指す。

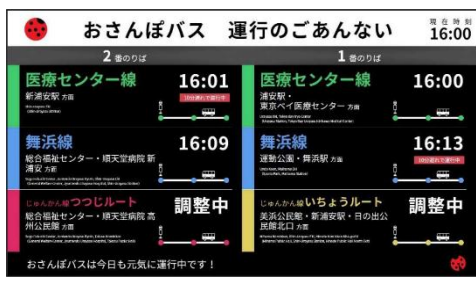
【施策内容】

⑨ 停留施設改善等によるバス待ち環境の快適性向上

- ・居住者や来訪者が利用する交通結節点や停留所において、上屋やベンチ設置だけでなく、以下のようなバス待ち環境の整備を検討し、利用者ニーズに応える。
  - ▶バス時刻表・乗換情報・バス接近情報
  - ▶運行案内等のデジタルサイネージ
  - ▶快適な待合空間（Wi-Fi・USBポート、暑さ対策など）

■ 施策イメージ（バス停近接の待合空間、情報発信、暑さ対策等）

施策内容



浦安市役所敷地内バス停デジタルサイネージ



ミスト付バス停(曙橋駅 都交通局)

実施主体 交通事業者、東京都、関係3区

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	⑨停留施設改善等によるバス待ち環境の快適性向上	協議・調整・整備				

【基本方針3】臨海部の特性を活かした回遊性のある移動環境の形成

施策 3-1 自転車シェアリング等の拡充

○開発が進む臨海部で増加するシェアサイクルポートを引き続き拡大し、他の交通機関との連携を強化し回遊性の向上を目指す。

【施策内容】

⑩ シェアサイクル等と、東京 BRT や路線バスといった他の交通機関との連携強化による回遊性向上

- ・臨海部における公共交通の末端交通としての利用や、公共交通を補完する短距離移動手段として今後も利用需要が期待されるシェアサイクル等の導入を拡充する。
- ・令和3年度から令和6年度までの自転車シェアリングのサイクルポート数は、HARUMI FLAG 等の大規模開発地で急増しており、開発が進む臨海部では今後も利用需要が期待される。

■サイクルポートの設置状況



■サイクルポートのイメージ



出典:「バイクシェアサービス(東京広域)」  
(令和7年10月17日現在)から作成

施策内容

実施主体 関係3区、設置事業者

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	⑩シェアサイクル等と、東京 BRT や路線バスといった他の交通機関との連携強化による回遊性向上	シェアサイクルポート設置継続				

**施策 3-2 開発に伴う空間整備と連携した歩行空間の確保**

○道路の歩道空間と開発に伴う公開空地などを活かし、連続性の高い歩行回遊ネットワークを創出することで、計画区域内の回遊性向上を目指す。

**【施策内容】**

**① 道路空間や公開空地などを活かした歩行回遊空間の拡大**

- ・臨海部における広幅員の歩道空間と、都市開発区域内のパブリック空間（通路、広場、公園内園路、民間空地等）をウォークブルな空間として連続性を確保し、地域全体の回遊性を高める。
- ・回遊性向上により、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成し、人々の出会い・交流の活性化、過度な自動車利用を控えることによる健康の増進や環境への配慮など、“モビリティマネジメント”を推進し、コミュニケーション等を通して、自動車に過度に依存することのない豊かで健康的な生活を実現できる都市形成の一助とする。

施策内容

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」

<b>Walkable</b> 歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出かけたくなる、歩きたくなる。
<b>Eye level</b> まちに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えたら、人は歩いて楽しくなる。
<b>Diversity</b> 多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
<b>Open</b> 開かれた空間が心地よい	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。



出典：国土交通省  
都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会

■ 開発敷地内の空間を活用した  
回遊空間の施策イメージ



月島三丁目北地区(出典：住友不動産)より作成

■ 人々の多様な交流に資する歩行空間  
を活用した施策イメージ



実施主体 都市開発事業者、東京都、関係3区等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
①道路空間や公開空地などを活かした歩行回遊空間の拡大						
		開発計画における歩行空間情報の共有・整備				

**施策 3-3 自動運転技術を活用した移動サービスの実現**

○臨海部の地域性や道路環境（幅員等）の優位性を活かし、自動運転技術の進展を見据えた次世代モビリティの実装を目指す。

【施策内容】

⑫ 自動走行や次世代モビリティ等の実装促進

- ・都では、2040年代の自動運転サービス普及を見据え、2030年頃までに都内8地区において先行的に自動運転サービスの導入を目指している。地域公共交通施策においても、計画区域におけるレベル4自動運転サービスの先行的な社会実装を推進する。



自動運転技術の移動サービス実証

- ・また、「⑪ 道路空間や公開空地などを活かした歩行回遊空間の拡大」に伴い、人とモビリティの共存を踏まえた移動体験を創出する、グリーンスローモビリティや自動走行モビリティなどの実装促進に協力する。



高輪ゲートウェイの自動走行モビリティ(ゲキダンイノ合同会社)

施策内容

実施主体 東京都、関係3区、自動運転事業者等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
	⑫自動走行や次世代モビリティ等の実装促進					

【基本方針4】ユニバーサルデザインに配慮した交通施設や情報提供機能の整備の加速

施策 4-1 ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備の更なる推進

○施策 1 から3までで展開する施設整備や情報提供等のハード・ソフト施策全てにおいて、ユニバーサルデザインに配慮した施策を展開し、年齢、障害の有無等にかかわらず全ての人が計画区域内を快適に移動できる環境実現を目指す。

【施策内容】

⑬ ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備

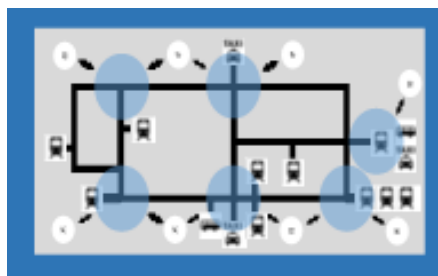
- ・東京 BRT、路線バス、コミュニティバス、シェアリングサービス等の端末交通など、多様な公共交通の乗入れがある施設（交通広場、ターミナル、主要バス停等乗り継ぎが生じる施設）において、誰もが利用しやすいような、ユニバーサルデザインや多言語対応等の施設整備を目指していく。
- ・特に複数の移動手段間の乗継ぎがある交通広場等では、適切な案内誘導サイン、バリアフリー環境その他高度な情報発信等ハード・ソフト整備を推進する。

施策内容

表記の統一性、表現の一貫性を確保する

- 共通の表記集を作成する
- 掲載する情報のルールを決める
- 各社の制約条件を踏まえた共通ルールを定め、統一したサインを整備する

ターミナルの構造に適した共通のサイン体系構築



動線に対し適切に配置する

- 主な動線に対する配置方法のルールを決める
- 案内サインに対する商業広告の配置のルールを決める

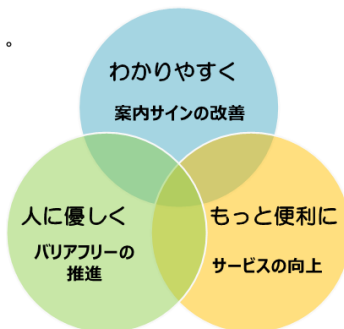
ソフト対策

バリアフリー対応が可能な施設をサインや共通のバリアフリーマップにより積極的に案内する

ハード対策

乗り換えの主な動線上にある段差等の障害に対し、可能な限りエレベーターまたはスロープ等を整備する

視覚障害者誘導用ブロック等を乗り換えの主な動線上に連続的に設置する



都営バスベビーカー安全ご利用ガイド（都交通局）

ユニバーサルデザインの対応方針  
（新宿ターミナル協議会資料）

実施主体 開発事業者等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030 以降
	⑬ユニバーサルデザインに配慮した交通施設整備の更なる推進	国や都、区のガイドラインに沿った施設整備				

**施策 4-2 急増するインバウンドへの多言語対応の案内充実及び動的情報（運行情報）の提供**

○臨海部では、外国人観光客の増加とともに、多言語対応の重要性が一層高まっていることから、観光施設だけでなく交通施設においても多言語に対応した情報提供の充実を目指す。

【施策内容】

⑭ 多言語対応の案内充実及び動的情報（運行情報）の提供

- ・多言語化に対応したデジタルサイネージやバスロケーションシステム、同時翻訳ディスプレイなど、情報提供サービス実装を推進する。
- ・停留所、運行ルート、時刻表など静的データだけではなく、遅延情報、到着予定時間など動的データについても多言語化に対応した案内機能（スマートバス停など）の整備を推進する。

施策内容



時刻 time	車種 route	経由・行先 via - departure	到着案内 departure
15:16	SS08 京成バス	葛西臨海公園駅 東京ディズニーシー	約10分後 about 10 min
15:36	SS07 京成バス	葛西臨海公園駅 東京ディズニーシー	約30分後 about 30 min
15:46	SS08 京成バス	葛西臨海公園駅 東京ディズニーシー	約40分後 about 40 min

京成バスによるスマートバス停導入事例  
(小岩駅、葛西駅)

区分	フォーマット名	対象とする情報
静的データ	GTFS-JP	停留所、路線、便、時刻表、運賃等
動的データ	GTFSリアルタイム 略称:GTFS-RT	遅延、到着予測、車両位置、運行情報等

多言語による動的情報(遅延情報等)の表示

実施主体 交通事業者等

実施時期	施策事業	2026	2027	2028	2029	2030以降
実施時期	⑭多言語対応の案内充実及び動的情報(運行情報)の提供	関係機関と連携・検証・促進等				

### 3 地域公共交通特定事業

本計画に基づき、令和8年度以降に地域公共交通特定事業として、地域公共交通利便増進実施計画を策定する。

#### (1) 対象事業

対象事業となる公共交通施策として「東京 BRT のネットワーク再編（延伸）」及び「東京 BRT との機能分担によるバス路線再編」を位置付け、令和8年度以降に東京都が交通事業者と連携し、「地域公共交通利便増進実施計画」及び「道路運送高度化実施計画」を策定する。

表 3-3-1 地域公共交通特定事業の対象施策

基本方針	計画目標	公共交通施策
新たな基幹公共交通軸（東京 BRT 等）と連携した公共交通網の形成	<u>計画目標①</u> 増加する移動需要に対応した東京 BRT の路線拡大・機能増強	<b>公共交通施策①</b> 東京 BRT の着実な段階的整備
	<u>計画目標②</u> 多様な移動需要に対応するため、東京 BRT と路線バス等の連携・強化を図る公共交通ネットワーク再編	<b>公共交通施策②</b> 東京 BRT との機能分担によるバス路線再編

地域公共交通利便増進実施計画

- ・東京都
- ・東京 BRT 事業者
- ・バス事業者
- ・令和8年度以降策定予定

道路運送高度化実施計画

- ・東京 BRT 事業者
- ・令和8年度以降策定予定

#### (2) 事業内容

将来の都市開発計画に伴う人口や来訪者の増加状況を踏まえ、計画区域内を移動できる公共交通網の更なる機能向上を目指す。

HARUMI FLAG 等の大規模開発等の新たなまちづくりにより、勝どき・豊海地区と晴海地区では常住人口・就業人口の増加が想定されている。

豊洲市場周辺地域では就業人口や来訪者の大幅な増加が見込まれるが、都心へのアクセスは複数の交通手段の乗継ぎにより一定の時間を要する。これらの地区では、環状第2号線の整備とともに、鉄道やゆりかもめと同等の輸送力・速達性を有する東京 BRT が展開している。

路線バスについては、鉄道や東京 BRT と連携し、それぞれの役割分担を踏まえて既存バスを中心に路線再編することで、広域的な移動需要に対応するとともに、コミュニティバスについては計画区域内のきめ細かい輸送サービスを提供する。

#### (3) 事業の効果

東京 BRT の整備及び路線バス等の拡充・再編により、計画区域内の各地区から都心部への移動の速達性が高まり、計画区域内の移動の利便性向上が期待できる。